



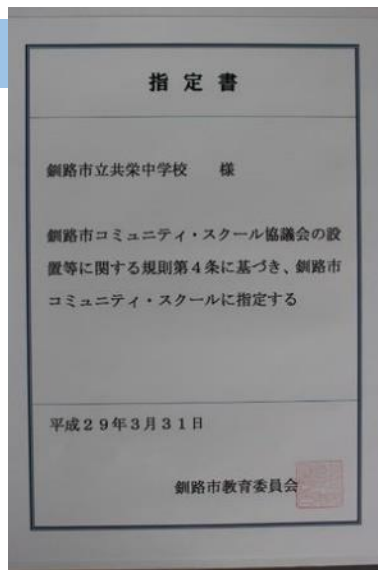
# コミュニティ・スクールだより

釧路市立共栄中学校 コミュニティ・スクールだより 第1号  
平成29年 7月25日(火) コミュニティ・スクール事務局

## 釧路市立共栄中学校コミュニティ・スクール指定

共栄中学校は、コミュニティ・スクールの導入に向けた調査・研究に2年間取り組んできましたが、釧路市コミュニティ・スクール協議会の設置に関する規則第4条に基づき、平成29年3月31日に釧路市コミュニティ・スクールに指定されました。

5月17日(水)に本校にて指定式が行われ、釧路市教育委員会より、高松教育指導参事が来校し、杉山校長に指定書が交付されました。本校の指定以前には釧路市の中学校では、阿寒湖中学校しかコミュニティ・スクールに指定されていないので、本校のこれからの取組は他の学校に大きく影響するものと思われます。



## 釧路市立共栄中学校コミュニティ・スクール協議員委嘱式

指定式が行われた後、コミュニティ・スクール協議員への委嘱式が行われ、高松教育指導参事より14名全員に委嘱状が手渡されました。

その後、教育委員会を代表して高松教育指導参事より、「2年間の調査・研究の成果を活かし、共栄中学校が地域や社会とより良い連携を図り、地域と一体となって子どもたちを育てたい。また、コミュニティ・スクールに指定された後も、コミスクの基本でもある



熟議と協働を重ね、共栄中学校コミュニティ・スクールの目指す子ども像～地域の中で学び、つながり、主体的に行動できる子ども～の目標に向かい、より一層、学校と地域が連携を深めていくことを願っています」との挨拶を頂きました。

昨年までの推進員として参加されていた方も、コミュニティ・スクールとしてスタートすることへの不安と責任からか委嘱式は緊張が張り詰めた雰囲気で行われました。



## 第1回コミュニティ・スクール協議会開催

第1回コミュニティ・スクール協議会では、まず始めに委員長に田中委員、副委員長に石田委員が選出され、田中委員長の進行で議事が進められました。

### 1) 学校経営方針の説明

学校長より、平成29年度の学校経営方針が説明され、学ぶ喜びを共有する学校づくりへの取り組みを協議会して承認を得ることが出来ました。

### 2) 推進委員会での取組と成果と課題について

#### ① 小学校との連携

・授業への支援や各種検定の合同実施。小学校行事への中学生のボランティア参加など新たな取り組みが行えたことが良かった。今後は校種間の系統性を持たせた教育課程の編成や生活や学習のきまりの検討を行い、教職員の連携強化にも取り組む。

#### ② 地域(町内会)との連携

・大津波避難施設であることを地域(町内会)に周知する取組として、地域合同防災訓練を実施することができた。今まで共栄中学校に入ったことのない地域住民の方も初めて学校に入ることができた。共栄中学校に災害時の備蓄品としてどのようなものがある



ことが分かったなど、地域住民と共栄中学校とのつながりを持たせることができた。しかし、来校してくれた地域の方は一部であり、多くの地域の方への周知と連携を深めていくことへの課題が残った。また、地域の行事へ中学生が参加や企画・運営に携わることができないかなども意見が出された。

#### ③ 学校支援ボランティア

・学校支援ボランティアとして、部活動の支援や授業(書写)の教師のサポートをお願いすることができた。しかし、ボランティアに登録して頂いている保護者や地域住民の方の数は少ないため、今後は具体的な活動や取組、「誰でもできる」、「簡単にできる」具体的な内容の支援を検討して募集していくことが必要であること。また、釧路には

釧路市立共栄中学校コミュニティ・スクール協議委員会

番	所属・役職名	氏名	区分
1	共栄東部地区民生委員	田中 俊 司	地域代表
2	共栄東部地区主任児童委員	浅 利 晴 芳	地域代表
3	愛国いずみ町内会 会長	高 下 節 男	地域代表
4	双葉南町内会 会長	三 木 均	地域代表
5	タツミ企画 社長	大久保 敏夫	地域代表
6	松浦児童館 館長	福 本 久 恵	地域代表
7	光陽小学校 校長	黒 坂 宏 子	教 職 員
8	共栄小学校 校長	小 野 三 枝 子	教 職 員
9	共栄中学校 校長	杉 山 稔	教 職 員
10	共栄中学校PTA会長	石 田 均	保護者代表
11	共栄中学校PTA副会長	伊 藤 千 明	保護者代表
12	共栄中学校PTA副会長	坂 田 絵 里	保護者代表
13	共栄中学校 教頭	年 代 香	教 職 員
14	共栄中学校 教諭	松 田 圭 司	教 職 員



あること。また、釧路には大学もあることから、大学生の支援も検討、依頼することなどの案も出された。3)H29のコミスクについて  
・小中連携では児童生徒・の交流、教師間の連携を強化する取組を行う。  
・中学生が地域行事に参加し、地域とのつながりを深める。  
・学校支援ボランティアについては広く周知を継続して行っていく。  
・保護者が学校に来やすい取組を増やして行くことなどについて今年度も取り組むことが提案された。